

## 1 事業名 魁！！親子塾 ～親子で遊べば，家庭・地域が変わる～報告書（案）

### 2 必要性

平成20年12月に策定された新しい「青少年育成施策大綱」では、「幼児の心身の調和のとれた発達を促すため、自然との触れ合いなど、多様な体験の機会を提供する。」ことが提言されると同時に、「親子での自然体験活動の機会を通じて、幼児期における多様な体験の必要性に対する保護者の理解を深めること。」も提言されている。また機構本部の掲げる平成21年度事業方針重点目標では「事業対象の拡大」が掲げられ、企画事業（先導的・モデル的な体験活動事業）において「幼児とその保護者を対象とした事業を実施すること」になっている。自然体験活動をはじめとする多様な体験の必要性を理解する保護者の育成は、幼児の心身の調和の取れた発達を促すものであり、保護者（特に父親）の青少年教育への参画を促すものである。よって本事業を実施することは、国立青少年教育施設の使命である。

### 3 趣旨

幼児とその保護者が、本施設の立地条件を生かした自然体験活動（広義での「遊び」）等を通して、自然の中に身を置く事の楽しさを感じたり、幼少期からの多様な体験の必要性を理解したりする。その過程を通して、自然体験活動をはじめとする様々な体験活動を家庭・地域で推進しようという意欲をもった人材を育成し、家庭・地域の教育力増進に寄与する。

### 4 後援

島根県教育委員会

### 5 期日

（第1回）平成21年 9月20日（日）～21日（月） 夏山の親子自然体験編  
（第2回）平成21年10月17日（土）～18日（日） 秋山の親子自然体験編

### 6 参加者

（1）募集対象・人数 幼児とその保護者及び家族・15組程度（約40名程度を想定）  
（ 幼児：概ね4歳以上、小学校入学前までで、第1回の参加者が、第2回にも継続参加することが前提での募集）

（2）参加人数 （第1回）61名 （第2回）43名

#### （3）参加者分析

募集対象は、幼児（概ね4歳～小学校入学前）とその保護者15組（家族）程度約40名を想定していた。親子、家族での参加が可能なおからすぐに定員がいっぱいになると思ったが実際には応募が少なく、対象を幼少期という同じくくりである小学校1年生までの児童とその保護者にも広げた。昨年度、幼児の父親を対象にした事業「魁！おやし塾」から引き続き参加してくださった方が、延べ19家族中6家族あった。島根県内に的を絞った広報を行ったが、HPを見て興味を持ち広島県から参加してくださった方もあった。参加形態は、家族全員での

参加が13家族、父と子又は母と子での参加が6家族であった。

(4)参加者地域 島根県51名，広島県17名

## 7 講師等

第1回：福田 悟（島根県キャンプ協会事務局長）

第2回：狩野 祥文（「島根自然の学校」スタッフリーダー・国立三瓶青少年交流の家研修指導員）

8 参加費 各回 大人：2,360円 幼児：1,690円

## 9 事業の内容

### (1)事業の特色

幼児やその保護者を主な対象にした企画事業は、特に国立の青少年交流の家においては今まで少なかった。そこでこの事業は、事業対象の拡大という機構本部の重点目標を受け、今まで対象になることの少なかった幼児とその保護者の自然体験活動を支援し、幼少期からの自然体験活動の必要性に対する保護者の理解を深めるために実施するものである。また、家庭・地域で自然体験活動等の担い手となる人材を育成することで、減少傾向一方にある青少年の自然体験活動に歯止めを掛けることができる事業でもある。さらに、学んだことをもっと大勢の人に還元したいという参加者の思いを実現できるよう、当施設の秋祭りへの自主的な参加を想定した2回シリーズの日程としている。

### (2)プログラムデザインと企画のポイント

昨年度、幼児の父親を対象にした企画事業「魁！おやじ塾」を行った際、父親だけの参加は大変難しい状況が生じた。今年度、機構本部の重点目標の中で、「幼児とその保護者を対象にした事業の実施」が掲げられたこともあり、「幼児とその保護者に自然体験の機会を提供し、その必要性を理解してもらう」という趣旨の元、本事業を企画したものである。企画にあたっては何よりも、幼児期から無理なくできる自然体験活動であり、また保護者もいっしょになって楽しめる活動を提供することを第一に心がけた。また、幼児が主役になる活動の他、親子・家族が触れ合える活動、三瓶の夏と秋の変化を感じ取れる活動、食べることを通して野外活動が好きになるような活動、家庭や地域に戻ってからも実践可能な活動になるように心がけて、企画を行った。

### (3)広報のポイント

島根県内全ての幼稚園と保育園にチラシを10枚ずつ送付した他、交流の家を利用されている園には、直接持参し広報を依頼した。

昨年度の企画事業「魁！おやじ塾」に参加された方への、ダイレクトメール。

三瓶青少年交流の家ホームページのトップページで紹介。



親も子も木登り体験に大満足！

(4) 日 程  
日 程 表 (第 1 回)

9/20 (日)	10:00	11:00	13:30	14:00	17:00	19:30	21:00	23:00
	開会行事 ねらいの共有・ 家族紹介他	小さなコック さん大活躍！子どもが握る具沢山おにぎり（飯盒炊飯体験）	休憩	今夜はどこに寝ようかな！ テント設営&野遊び体験&ドラム缶風呂体験	集い 夕食 入浴	火の神様が、三瓶に舞い降りた！ キャンプファイヤーで燃え上げれ！	保護者フ リー交流 会&就寝 準備	就 寝

9/21 (月)	6:30	7:30	9:00	14:30	15:30
	起床	こい・清掃	朝食	家族で登れば登山なんて、へっちゃら へっちゃら！ 家族でチャレンジ、眺め最高！女三瓶登山&放牧牛えさやり体験！	閉会行事 感想発表 さようならの会

日 程 表 (第 2 回)

10/17 (土)	10:00	10:30	12:00	13:00	17:00	19:00	20:30	22:30
	開会行事 ねらいの共有・新規家族紹介他	木登りできたよ！親子の信頼関係がもっと深まる、ツリークライミング体験	昼 食	森の中は、わくわくドキドキランド 森の中でできる遊びを、親子で発明・発見！	集い 夕食 入浴	見えるといいなお月様 肝試しナイトウォーク&星空観察	保護者フ リー交流 会&就寝 準備	就 寝

10/18 (日)	6:30	7:30	9:00	12:00	13:00	14:30
	起床	こい・清掃	朝食	秋の味覚を探しに行くぞ！ 森の中は、おいしい木の実でいっぱい&竹フオーク作り（秋の森の自然散策他）	昼 食	閉会行事 感想発表 さようならの会

(5) 運営のポイント

第1回、夏山の親子自然体験編では、野外炊飯（おにぎり作り）にテント設営（デイキャンプ体験、希望者は夜もテントで宿泊）、ドラム缶風呂、キャンプファイヤー、登山、放牧牛えさやり体験など、様々な活動を詰め込んだため時間に追われる結果となった。特に幼児が対象のため、時間が予想外にかかることも多く、もっとゆったりとした時間設定がよかったという意見を参加者からいただいた。その反省をいかし第2回、秋山の親子自然体験編ではゆったりとした時間設定になるように特に留意した。「何もなくても遊べる子（家族）になる」「必要なものは自分で作る」の2つを第2回目の基本方針に掲げ、こちらからプログラムを提供するというよりは、親子が大自然を目の前に「次は何をしようか？」とプログラムを考えられるようにしたところ大変好評で、満足度も高い事業となった。

## (6)安全管理のポイント

第1回、夏山の親子自然体験編では、子どもたちが火に接する機会が極端に少なくなっている現状を踏まえ、野外炊飯やキャンプファイヤーなど、火を使う活動を多くプログラムに取り入れた。その際、幼児が対象ということでいつも以上に安全管理に気を遣った。飯盒炊飯は、足を外したバーベキュー用コンロを用意することで、幼児の目線の高さで炊飯できるようにした他、キャンプファイヤー時のトーチも、家族で1本にすることで幼児の安全を保護者に確保していただいた。また、幼児の体力に合わせて登山のコースを設定（女三瓶山標高957m）し、下山時には体力に応じてリフトでの下山もできるように配慮した。第2回、秋山の親子自然体験編では、木登りをメインのプログラムとして位置付けていたが、落ちてケガをしにくいポイントを事前に講師とともに設定した他、安全な木登りの方法について講師より指導していただいた。

## (7)アンケートの主な記述

### <第1回に関連して>

- ・ 来る前からドラム缶風呂、牛のえさやり体験等大変楽しみにしており、家庭ではなかなか実践できないプログラムが多くあり、これからも家庭ではできないプログラムを行っていただきたい。
- ・ もともと私が自然大好き体験主義者なので、ねらいは同じです。でも、なかなかテントで寝たり、登山をしたりはふんざりがつかないもので、泊りがけでつけものになれるいい機会でした。
- ・ 今回スケジュールが少しきつかったので、今回のような連休であれば、2泊3日くらいの日程にして、ゆとりを持ってできたら各プログラムがより充実したものになるのではないかと思います。

### <第2回に関連して>

- ・ 親子でする自由活動は、それぞれの家庭の年齢に合わせたものを選べたので、無理なくできた。
- ・ おしつけがましさもなく、距離のとり方が絶妙でした。火熾しなどは家ですることもないので、火の大切さ、危険さなどを感じることができたのではないかと思います。日中の天気と朝晩の天気の違いなど、季節を体で感じることができ、夜のナイトウォークも暗闇を体験できて印象に残ったようです。
- ・ 私は自然も野外活動も大好きで、そこでこそ「生きる力」が育まれると信じていますので、こんな企画がどんどん増えて、参加もどんどん増えたらいいなと思っています。

## 9 成果と今後の課題

### <成果>

成果としては、今回の事業を通して、幼児とその保護者が自然体験活動に対して大きな興味を持ったことが挙げられる。また、幼少期からの自然体験活動の必要性について、保護者の理解が進んだことも大きな成果である。それらは、事業直後のアンケート結果から伺える。また、保護者の聞き取りにより行った「子どもIKR」の分析結果からも、子ども達の生きる力が向上していることを裏付ける結果が出ていることも成果である。第2回の1週間後に行われた、交流の家の秋祭り（2日間で延べ4000人が来場）に、親子塾参加者及び昨年のおやじ塾参加者の有志が自然体験活動の店を出し、学んだことを祭りの来場者に対して還元したことも、活動の広がりを期待する上で大きな成果であった。

## < 課題 >

運営のポイントでも触れたが、ゆとりあるプログラムを組むことが大切である。特に幼児を対象とした事業では、十分過ぎるくらいに配慮すべき課題である。

今回は対象を幼児（概ね4歳～小学校入学前）に限定していたものの、予想に反して応募が少なく、小学校1年生まで対象を拡大した経緯がある。幼少期という発達段階の区切りで見れば、募集時から、小学校低学年までを対象にしても良かったかもしれない。また今回、保護者同士の情報交換が進むように自主交流会の場を設定（子ども達の寝た後）していたが、極めて少ない参加で、昨年度の「魁！おやし塾」からの継続参加者からは、少し物足りないという感想も頂いた。保護者同士のネットワークが広がることで活動の広がりが期待できることを考えると、今後は、保護者同士のネットワークをどのように構築し、情報交換を進めていくかを考えていく必要がある。また、親のプログラムとして、親学や子育てについて理解を深めることができるような研修を入れることを今後検討すれば、より意義深い事業になると思われる。

## 10 普及計画・普及実績

取り組みの様子を報告書にまとめ、教育委員会や関係機関に情報発信することで、幼児とその保護者に対する自然体験活動等の事業の成果を広める。また、マスコミ等にも積極的に働きかけ、事業の性格を広く広報する。そして自然体験活動等の受け皿として本施設の宣伝を行い、利用促進にもつなげたい。また、事業普及の為、国立吉備青少年自然の家主催「中国ブロック青少年体験活動フォーラム in 岡山」において事例発表を行い、主な参加者である公立施設職員に「魁！！親子塾」の成果を中心に説明し、「参考にしたい」等の感想をいただき好評のうちに終わることができた。

## 11 その他

四季折々に姿を変える自然の魅力を、小さな子どもたちのいる家族の皆さんへ伝えたいと思った。特に、お父さんに自然体験活動の魅力を伝えることができれば、各家庭での継続的な自然体験へ繋がると考える。経験豊富な2人の講師の先生に、プログラムの作成段階から丁寧に指導していただいた。特に今回は事前スタッフ研修会を開催し、より綿密に連絡を取り合うこともできたことも、事業が成功裏に終わった要因である。（担当 八幡 明）



・石垣だって、忍者の修行ができる！



・こんな高さもへっちゃら！



・5人も登ってまーす！



・ぐるぐるぱんに入れるクルミだよ！



・星がきれいな夜でした！



・焚き火台でぐるぐるぱん作り！